



## つながる農業 愛 地産!

### ～愛知エコブランド確立を目指して～

グループ名:「農」と言える愛知2030!策定委員会  
 メンバー:家田良二、武隈恭子、山田悦代、吉川敦  
 チュータ:隈部和弘

#### 現状の把握(課題認識)

- ①**環境問題**:「フードマイレージ」が、他国に比べて数倍程度あり、環境に対して大きな負荷となっている。
- ②**食に関する環境の変化**:食品偽装問題等に起因する「食の安心・安全」に対する意識の変化が起こっている。
- ③**農業に関する環境の変化**:農業の担い手の高齢化に伴う深刻な後継者不足や、無理な農業手法による土地の荒廃化、休耕地の増加の問題がある。

#### 2030年に向けての提言の概要

人々が「食」や「農業」を楽しめる世界を作ること

### 「つながる農業」の確立

「つながる農業」とは持続可能な未来につながる「エコ農業」を中心とした、生産者と消費者がつながる、企業とつながる、行政とつながる...現在個々で機能している関係をより強固なものにすることにより、愛知県の農業力の底上げとなる農業のことである。

#### 提案の内容

「つながる農業」確立のため、行政と企業の2方向からアプローチ。

- 官民が連携し、「つながる農業」づくりの支援体制を構築して、企業の農業参入を促進する。愛知県内の各部署を横断したプロジェクトチーム「つながる農業戦略推進チーム」を結成し、産官学で連携しながら、地産地消のできる環境づくりを行う。
- 30年後には企業が農業に参画して物流効率はアップし、「安心・安全」な食品の提供のため、県内産の食品については消費者をはじめ生産者から流通業者、小売業者の誰もが簡単に履歴をトレースできるトレーサビリティシステムを確立。

#### 提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

『名古屋の文化を変えませんか?』

“モーニングおにぎり”プロジェクト!

「エコモニ」=エコロジー・モーニングの一般化を図る。エコ農業で作られた農産物「愛知エコブランド」をナゴヤの文化のひとつであるモーニングで消費し、これまでの「コーヒー代だけでボリューム満点の朝食が食べられる」文化を「コーヒー代だけでボリューム満点の環境にやさしい朝食が食べられる」文化へと昇華させていく。



#### 波及効果

持続可能な発展、食の安心・安全、国内自給率のUP、新たな雇用の創出、「愛知」のブランド力向上が考えられ、2030年には『農』と言える愛知へ進化を目指す。